

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

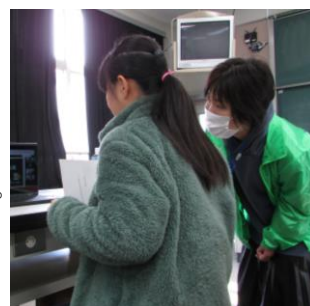
取組目標

合言葉を『三笠はひとつ、三笠はならのまほろば』とし、奈良の中心地としての伝統や文化・誇りを再確認し、新たな郷土愛や誇りを育む

【今年度の取組紹介】

○子ども未来会議

多くの人や子どもがひとところに集まることができない中、「子ども未来会議」をオンラインで実施しました。多くの人が会して直接話し合うこれまでの「子ども未来会議」の双方向性とリアルタイムな進行とともに、どこからでも参加できる新しい形、可能性が示されました。また、会議の準備や司会に、三笠中学校のOB、OGが参加してくれたことは、意義深いです。「地域で人が育つ、地域が人を育てる」そんな繋がりが生まれました。



○おうちでチャレンジ、三笠はひとつ



コロナ禍の中、できることは限定的でしたが、できないことを嘆くよりも、今だからこそできることをさがし、完全な感染予防対策のもと、新しい事業への挑戦「おうちでチャレンジカード」や従来の事業のイノベーション「オンラインでの子ども未来会議」機関誌の発行「三笠はひとつ」に取り組み、何とか次年度へとつなげていく事が出来ました。

【今年度のまとめ】

「三笠はひとつ、三笠はならのまほろば」を合言葉に、絆と協働によって地域活性化を図り、子どもの育ちと学びをさらに充実させることを目的とし、各種事業の展開を計画していましたが、コロナ禍の中実現できることは限定的でした。しかし、できないことを嘆くよりも、今だからこそできることをさがし、完全な感染予防対策のもと、新しい事業への挑戦「おうちでチャレンジカード」や実施形態の変更「オンラインでの子ども未来会議」に取り組み、何とか次年度へとつなげていく事が出来ました。

【来年度に向けて】

コロナ禍の中、新しい形で種々の事業を実施し、その可能性や有用性が発見できました。続けることと変わること、つなぐことの大切さを忘れず、今後も工夫し事業を継続して行っていきます。そのための予算や人材の確保も課題ですが、啓発活動を充実させ、地域教育協議会の理解をより一層深め、認知度を高めていき一人でも多くの人が参加できる事業にしていこうと、課題解決に努めます。

めざす子ども像

郷土を愛し 夢と希望をもち 自分自身に誇りをもって**未来を切りひらく子ども**

取組目標

学校を支援してもらうだけが目的ではなく、地域力の醸成や住民自身のやりがいを感じる場をつくり、地域と学校との間に良好（双方にメリット）な関係づくりをめざす。

今年度の取組紹介

本校は地域教育協議会を『コミュニティ・スクール』の四つの部会である「学び支援」「育ち支援」「地域連携」「学校評価」の実働組織である「地域連携」として位置づけ活動しています。部会は、学校の教育目標を学校・家庭・地域で共有し、組織的・機能的に運営していくことで職員、保護者、地域の協働意識を高めるとともに、生徒の抱かえている課題をそれぞれの立場で把握し、具体的な活動に取り組み、課題の解決に努めています。教員が子どもと向き合う時間確保のため、図書ボランティア、放課後や土曜日などの課外授業から、キャリア教育など教育課程内にも支援を広げています。さまざまな実社会で経験を持つ大人が工夫を凝らした授業を展開することにより、子どもだけでなく教員も課題解決力の向上や、明確な教員としての目的意識・責任感を養うことにつながっています。今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため活動は少なかったが、地域行事・清掃活動等に参加し、地域の方々との活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育み「生きる力」を培ってきています。特に進路に向けた面接練習として、企業勤務経験者などの地域住民が、面接官となり、目前の高校進学だけでなく勤労観・職業観を養い、社会自立をしていくことに対する目的意識を持たせることにつながっています。



(労働に学ぶ)



(面接練習)

今年度のまとめ

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業により事業のスタートは遅くなりましたが、感染防止対策を講じて学校内での「学習支援」「ゲストティーチャー」「面接指導」等に地域の方々に来て頂き、実施することができました。地域の方々には、教員とは違った視点からたくさんのお話を子どもたちに伝えて頂き、子どもたちの学びを支えていただきました。一方コロナ禍の中、地域に出向いてのボランティア活動がほとんど行えなかったことは、多くの大人たちに評価をいただく機会、自己有用感を味わう機会が少なくなったことは残念に思います。

来年度に向けて

これまで培った地域コミュニティでの協働体制を大切に、子どもたちのため、学校や地域のために活動することを通して、『みんなで支え、みんなで育てる』と同時に『学校・地域のみんなが育つ』ための核となる組織づくりを目標にさらに取り組んでいきます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、**自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

世界にはばたく世界で生きる椿井っ子

今年度の取組紹介

奈良市の中心部に位置し、多くの寺社や観光名所が校区内にある本校は、長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の方の愛校心が強く、また学校教育に対する関心も高いです。そのため何事にも協力的です。こういった素晴らしい環境や地域の教育力を生かし、自分たちのまちに誇りをもつとともに、積極的に活動し、表現や発信のできる児童の育成を目指して取組を進めました。

新型コロナウイルス感染症の流行下で、活動にも様々な制限がありましたが、できる限り今までの取組を踏襲する形で事業を進めました。名人に学ぶ事業、手話交流会では地域の方においでいただき、ゲームや歌を通じて手話に親しむ活動を行っていただきました。回数は限られていましたが、コミュニケーションの一つの手段として手話に触れるというのは、児童にとって大変有意義な活動となりました。また名人に学ぶ事業では、おん祭りについてお話を聞かせていただいたり、綿紡ぎ体験を通じて糸や布について学ぶという取組も行いました。



綿紡ぎ体験



手話交流会

今年度のまとめ

学校の教育活動に非常に協力的な地域の方々に支えられて取組を進めていくことができています。コロナ禍で非常に制限の多い中でしたが、感染拡大防止策を講じながら活動することができました。「環境を整える」事業においても、学校や地域を大切に思う方々の存在に子どもたちが改めて気づき、感謝する気持ちを育てることができました。

来年度に向けて

来年度は、今まで続けてきた取組の見直しを行い、継続を基本線として可能な範囲での精選を検討していきます。これまで協力していただいた地域の方々を大切にしながらも、新たな地域人材の活用など取組をより発展させ、本校の教育目標の達成を図れるようにしていきたいです。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望を持ち、自分自身に 誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

夢を持ち、夢を語り、夢を叶える

たくましい子どもを育てる大宮アクション

【今年度の取組紹介】

◆子ども未来会議

・12月23日に「第11回子ども未来会議」を開催しました。今年度は、コロナウイルス感染防止のため、「リモート会議」にて実施しました。各小学校児童3名、中学校生徒2名が会議に参加し、それぞれの学校にて、今年度貸与されたタブレットを使用しました。

・それぞれの学級、学年で集約した意見を伝えることからスタートし、徐々に意見交換を進めていきました。三笠中学校区出身の大学生、高校生が司会を務めリモートのハード面でも、より良い進行のソフト面でもみんなを引っ張ってくれる頼もしい存在でした。

・リモートならではの難しさもありましたが、観覧した保護者の方から「今回のリモート会議はいい記念になるのではないか」というお言葉をいただきました。直接会うことはできなくても、オンラインで人と繋がることのできる新たな可能性を感じた「子ども未来会議」となりました。



【今年度のまとめ】

・例年、地域の方々からたくさんの協力を得て実施してきた取組は、コロナ禍のなか実施できることは限られました。その状況を踏まえて新型コロナウイルス感染対策をとり、子どもたち、あるいは大人だけでもできることを続けたり、オンラインを活用したりしながら可能な範囲で実施しました。

・オンラインを活用した「子ども未来会議」は、三笠中学校区出身の卒業生が主体的に関わり進めてくれました。本取組の趣旨を理解しながら皆で協力して実施できたことは意義深いと考えています。現在の小学生が、近い将来、今回の卒業生のように活躍してくれることを期待しています。

【来年度に向けて】

・地域ボランティアの方々の高齢化に伴い、新しいボランティアの発掘が今後もまだまだ必要になります。学校ホームページ等様々な方法を用いて情報を発信し、さらなる協力者を募っていきたいと思います。

・コロナ禍での対策を踏まえた取組の進め方を検討していく必要があります。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望を持ち、**自分自身に誇りを持って、未来を切りひらく子ども**

取組目標

自尊感情をもち、地域・仲間とつながって健やかに生きる児童を育成するための地域教材や人材を生かした取組の充実

今年度の取組紹介

本校の取組の特色の1つであるのが、「雅楽体験」を取り入れた音楽教育を活用した教育活動です。南都楽所の講師先生の指導も受けながら、取り組む予定でした。日本の伝統芸術文化を体験できる貴重な機会になっているのはもちろんですが、大西小の伝統を受け継ぐ誇りを感じ、地域・仲間とつながる思いを味わうことができていました。しかし今年は、コロナ禍により断念いたしました。



また、本校の前を流れる佐保川とその自然環境をテーマにした「佐保川環境学習」にも継続して取り組む予定でしたが断念いたしました。色んな行事に制限がある中、地域の方々と共に行う「佐保川清掃」・「河川植樹」活動は行うことができました。「わが町を流れるふるさとの川を大切に思う心」を育むことができ、「大好きな大西小を誇りに思う心」の育みにつながっていることを実感する取組となりました。また、コロナ第3波を懸念しながら、第8回校区成人式を行うことができました。例年とは違い、短時間で密にならないように内容を変え、新成人にとって少しでも成人の門出になる行事になるように恩師の参加のもと行いました。

今年度のまとめ

コロナ禍により、限られた活動となりました。本来なら、豊富な行事に学年間で参加体制を調整し、地域の環境保全の取組や行事を各学年の教育課程に効果的に組み込んで実施する予定でした。美しい佐保川の川辺で四季を通じて集えるのは、「佐保川清掃」をはじめとする日頃の様々な取組があつてのことということ改めて感じました。

また、第8回目を迎えた校区成人式ではなつかしい校舎に集い、和やかなひとときを過ごしました。

来年度に向けて

コロナ禍を想定するとなかなか活動が厳しい状況ではあります。また、地域の高齢化などに伴い、地域人材の確保が厳しくなっている状況があります。3年前から始めた「地域ボランティア募集」の呼びかけをさらに充実していき、人材確保をしたいと思います。また、各取組を今後も継続して無理なく充実させていく上でも、地域・学校・家庭の3団体が熟議を重ねながら、より効率的かつ効果的な事業となるよう、今後も検証・改善を行い、地域・学校・家庭が一体となり、『ふるさとを誇りに思い、大切に作る心』を育んでいきたいと考えています。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをも

って、未来を切りひらく子ども

取組目標

地域にある自然環境や文化的歴史遺産、さらには、地域の豊かな人材を活用しながら、心豊かで人や物にやさしく、地域を愛する子どもを育む。

【 佐保川清掃活動 】

佐保川の環境を守る活動として、地域の方々と共同で取り組む佐保川清掃は、生きた学習環境を提供してくれる佐保川をみんなで大切にする心を育みます。そして、地域の方々とこの気持ちをつなげる大切な取組でもあります。



【 図書充実活動 】

保護者の方々による図書室の環境整備や図書修繕を行っていただきました。また、低学年の児童を対象に、絵本の読み聞かせを行っていただきました。読書は「心のビタミン」といわれています。子どもたちに読書の素晴らしさを伝え、本との出会いを促し、豊かな心を育むことに大いに役立てることができました。



【今年度のまとめ】

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するため、咳エチケットや手指の消毒に加えて、換気の充実、三密の回避などが余儀なくされた1年でした。その中でも、感染状況が落ち着いている期間に、図書充実活動や環境整備活動事業などを行ってくださり、子どもたちの教育環境の向上につながりました。

【来年度に向けて】

体験的な活動を通して、地域の方々を通して、地域の方々と触れ合い、地域の行事に積極的に参加する等、子どもたちに体感させることが重要であると考えます。佐保川小学校の校区を愛し、地域に誇りをもつ子どもの育成を目指したと考えます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、 自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

地域の人材や教育力をいかした多様な体験活動を進めながら、人とのかかわる楽しさを感じ、豊かな感性やたくましい心を育む取組の充実

【今年度の取組紹介】

《環境整備事業より》

芝の世話・畑や花壇の整備を地域の方のお力を借り子ども達と一緒に行いました。地域の方が、暑い中芝刈りや芝の間の草引きをしてくださったり、野菜や花の植え方を教えてくださったりする様子を見て、子ども達も草引きや水やりを進んで行うようになりました。「頑張ってるね。」「水やり頼むよ。」と声をかけていただくと子ども達は嬉しさや達成感を感じていました。様々な方が幼稚園のために協力してくださる様子を見ることで、子ども達も地域の方に見守られていることを実感することができるようになっています。



《体力づくり事業より》

『げんきっこクラブ』と題して、地域で活躍されているゲストティーチャーに来ていただき、10～1月に年4回実施しました。園庭で鬼ごっこやボールに慣れるような遊び、サッカー等、年齢に合わせて十分に体を動かして遊ぶ内容で、体を動かすことに苦手意識をもっている子も楽しんで参加することができました。この活動をきっかけに友達と誘い合って鬼ごっこやサッカーをする子が



増えてたり、日頃の保育に取り入れたりすることもでき、保育内容の充実につながりました。子ども達が思い切り体を動かす環境が少なくなっている中、幼児期に必要な思い切り体を動かす楽しさを味わうことができる活動と、なっています。

【今年度のまとめ】

今年度は、たくさんの人数の方との触れ合いができない等、活動内容に制約がありましたが、地域の方が工夫してくださり、多くの協力を得ることができ、様々な活動を実施することができました。大宮地域ならではの体験活動に重点を置きながら、直接体験をすることで、コミュニケーション力や体力の向上にもつながりました。また、地域の方々と関わったり園外保育に出かけたりすることで、地域の様子や文化財を知る機会にもなりました。制約等があった今年度だからこそ、地域の方々の子供達に対する温かい気持ちや、子供達につけさせたい力などを、今まで以上に感じ、考えることができた実感しています。

【来年度に向けて】

来年度も地域の方やゲストティーチャーの方のお力を借り、めざす子ども像に向け、子供達にとって地域の方に親しみを感じ、人と関わることで得られる喜びや温かさ、安心感等を得られるような活動を継続していきたいと思います。また、大宮地区を知り、親しめる機会も増やしていきたいと考えています。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望を持ち、自分自身に誇り**をもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

様々な環境に関わり心を動かす感動体験を通して、たくましい心と体・豊かな感性をはぐくむための遊びの創造。**【今年度の取組紹介】****〔地域活動事業〕**

園外保育の計画が進まなかった際に、地域の方の協力により「コミュニティ農園」での芋ほり遠足を実施することができました。行き帰りの見守り、畑での援助等、地域の方と楽しく貴重な経験することができました。収穫したさつま芋を一人ずつ持ち帰り、家庭での会話や、翌日の子どもたちの会話にも話題に上りました。

**〔伝統文化触れ合い事業〕**

地域で活動されている、生け花の先生に来ていただき、生花を使って自由に生ける「生け花教室」を行いました。園庭に咲く草花とは違う花の色、形、大きさ、匂いなど触ったり嗅いだりと、五感を使って子どもたちの自由な発想で生けることができました。同じ花でもそれぞれの仕上がりがあって、お花の表情も様々です。作品展に展示して、家族の方に見ていただくことができました。

**【今年度のまとめ】**

様々な方々と触れ合い交流する機会がもてなかった中、地域の方々の協力のおかげで、園外保育(芋ほり)を実施することができました。又、「体操教室」や「チャレンジクラブ」では、体を使って活動する楽しさを体験でき、普段の保育に取り入れながら、運動遊びに興味を持つことができるようになってきました。今後も保護者や地域の方には、ホームページや地域の会合等で園生活の様子や園児の成長を発信しながら、“地域の中の幼稚園”としてより地域の方々の理解や協力を得られるようにしていきたいと思っています。

【来年度に向けて】

地域の方や保護者も園児の成長を感じ、共に事業の継続を望む声が届いています。今年度の成果や課題を受けて、回数や行事の精選をしながら、保護者や地域の方のお力を借りて、引き続き進めたいと思います。